TOKYO BAPTIST CHURCH 東京バプテスト教会
Weekend Message
週末メッセージが聞けます http://tokyobaptist.org/sermons/

起きなさい！ 新しい天と新しい地

ペトロの手紙二 3:8-13

2022年4月9日&10日
余沢 武牧師

I. はじめに

こんにちは。 今週の金曜日、夜7時30分からZoomで「聖金曜日の祈りと主の晩餐」を行います。リンクは、概要とTBC Lifeにあります。皆さん、ぜひご参加ください。クラッカー又はパン、グレープジュースの用意を忘れずに。

来週末のイースターの週末に座席を調整します。グループとグループの間に 3 つの空席がありましたが、2 つの空席になります。グループとは、一緒に生活している人たちのことを指します。しかし、誰を含むかは、皆さんの判断を仰ぎたいと思います。予約は今まで通り必要です。

今年の夏、おそらく7月には、皆で一緒に礼拝できるように祈っています。おそらく、グループ間の座席を1つに減らし、予約をなくし、いくつかの例外とガイドラインを除いてすべてのミニストリーを再開し、各SGがどのように会うかは各々のグループに決めてもらうことができると思います。

私たちは、決定を下す前に、状況を監視し続けることにします。主がこれを許してくださるように祈り続けましょう。では、お祈りします。

今日はペテロの手紙二の学びを続けます。偽教師たちが、イエス様が帰ってこなかったので、裁きはない、と教えていたことを学びました。

II. 新しい天と新しい地

(1) 主は忍耐強い

ペテロの手紙二 3:8-9 を開きましょう。「愛する人たち、この一事を忘れてはなりません。主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のようです。ある人たちは遅いと思っていますが、主は約束を遅らせているのではありません。一人も滅びないで、すべての人が悔い改めるように望み、あなたがたのために忍耐しておられるのです」

ペテロは、イエスが世を裁くために戻ってこない理由を説明しました。

彼は 2 つの理由を述べました：

理由 1.「主のもとでは、一日は千年のようで、千年は一日のよう」だからです。言い換えれば、主には私たちの時間は当てはまらないのです。

マーティン・ロイドジョンズ博士は、神を時計を作る人に例えています。神は時計を作り、動かし、そして制御します。 しかし、神はその時計の外側にいるのです。好きなように時間を止めたり、変えたりすることができるのです。

理由 2. 主は忍耐強く、「一人も滅びないで、すべての人が悔い改めるように望む」からです。神は私たちが誰一人として滅びることを望んでいないので、私たちが悔い改めるのを忍耐強く待っているのです。思い起こせば、パウロは最初クリスチャンを憎んでいて、殺そうとしていました。でも神は彼をすぐには裁きませんでした。待ったのです。その間、多くの人が彼によって迫害されました。そして、ステファノという敬虔なクリスチャンが死にました。

しかし、神が待たれたため、その間に多くのクリスチャンは成長せざるを得ませんでした。彼らはステファノがしたように、敵のために祈ることを学びました。神の民は信心深さと愛を成長させました。そしてパウロは救われたのです。神の忍耐が救いへと導いたのです。

私たちの家族、同僚、友人には、クリスチャンでない人がいるかもしれません。彼らは、クリスチャンの教えに同意しないでしょう。彼らは、イエス様のように私たちを愛してくれません。私たちを苦しめ、みじめに思わせることすらあるでしょう。

私たちは不思議に思うかもしれません。なぜ、神様は何とかしてくださらないのだろう？ 神は待っておられるのです。私たちが敵のために祈ることを学ぶように待っておられるのです。私たちの内に信仰と愛が増すように待っておられるのです。そしていつの日か神の忍耐によって彼らが救われることを望んでおられるのです。神は忍耐強い方です… 一人も滅びないで、すべての人が悔い改めに至ることを望んでおられます。

(2) その日は来る

10節「しかし、主の日は盗人のようにやって来ます。その日、天は激しい音を立てて消えうせ、自然界の諸要素は焼け崩れ、地とそこで造り出されたものも焼けてしまいます。」

ペテロは、イエスが教えられたことを私たちに思い出させています。主の日、つまりイエスが世界を裁くために戻ってくる日は、盗人のようにやってきます。それは、予想もしていない時にやってくるのです。

歴史上、大きな混乱が世界に起きるとき、人はイエスが戻ってこられると考えます。

偉大な改革者マーティン・ルーサーは、16世紀の教会の混乱から、イエスの再臨がその時にあると信じていました。でも、彼は間違っていました。
偉大な説教者であるジョナサン・エドワーズは、18世紀にイエスの再臨が起こると信じていました。でも、彼も間違っていました。

では、主はいつ戻ってこられるのでしょうか？ その日は泥棒のようにやってくるでしょう。誰も予期していない時です。私たちが知っているのは、今日がその日であるかのように生きて、準備をするべきだということです。

その日、元素は燃え、分解されるのです。先週お話ししたように、現代科学は、宇宙のあらゆるものを構成する、20ほどの「素粒子」を特定しており、それはエネルギーによって結合されるのです。しかし、それらはすべて燃え尽き、溶けてしまうのです。

(3) 新しい天と新しい地

11～13節はこう続きます。「このように、これらのものがみな、崩れ去るのだとすれば、あなたがたはどれほど聖なる敬虔な生活を送らなければならないことでしょう。神の日の来るのを待ち望み、それが来るのを早めなさい。その日には、天は燃え尽き、自然界の諸要素は火で溶け去ってしまいます。しかし、私たちは、神の約束に従って、義の宿る新しい天と新しい地とを待ち望んでいます。」

ペテロは、すべてが焼き尽くされ溶けるとはいえ、それは終わりではない、と言っています。むしろ、それは神の民の新しい始まりなのです。神はその後に新しい天と地を創造されるからです。ここで「新しい」という言葉は、全く「新しい」質のものを表しています。

私たちは、これまでに一度も起こったことのないことを経験することになるのです。ノアの時代に裁きが来たとき、やがて地球は不義に覆われました。ソドムとゴモラに裁きが来たときも、またすぐに、その地は不義によって覆い尽くされた。

しかし、今回は違います。今度、天地が焼き払われる時には、「義」以外のものはなくなるのです。イエスは「天地は滅びるが、私の言葉は決して滅びない。」と言っています。(ルカ 21:33)

そこは、神の義と敬虔だけを望む人たちのための場所です。そして、彼らは永遠にそこに住むのです。そこは義が宿る場所なのです。

パウロは、もし私たちがそこに住むことを望むなら、そのために自分自身を準備する必要があると言います。それは「聖なる行い」と「敬虔さ」です。

もし私が近々アメリカに移住する予定があるなら、日本で生活を確立するために時間を費やすことはないでしょう。日本で新しい家や車を買うことはないでしょうし、子供を通わせる学校を調べたりしないでしょう。日本の文化や習慣を学ぼうとは思わないでしょう。

アメリカの家を探して、そこで車を買って、子供を通わせる学校を選び、アメリカの文化や習慣を学びます。そこが私の新しい家となるのですから。

ペテロはそういうことを言っているのです。私たちの生活、価値観、道徳観を、この罪深い世界に合わせてはいけません。私たちがこれから行く神聖な神の世界に合わせてください。これが、私たちがQT(神との静かな時)に時間を投資する理由なのです - 私たちの新しい家に住まうための神の御性質を身につけるために。

これが、私たちが準備し、イエスの再臨を待つ方法です。実際ペテロは、私たちの聖なる行動と敬虔こそがイエスの再臨を早めるのだと言っています。

私たちが周りを見渡すと、世界では恐ろしいことが起こっています。しかし、クリスチャンである私たちは、驚くことはありません。なぜなら、私たちは、神がこの世界について何を言われ、どのような計画をお持ちなのかを知っているからです。ですから、私たちは新しい天と地に備えるために生きているのです。私たちはそこに希望を置いているのです。

ですから、人が私たちを嘲笑するとき、私たちはどのようにしたら神聖な方法で反応できるかに焦点を当てます。
人々は私たちを攻撃するとき、それでも私たちはどのようにしたら神聖な方法で対応できるか集中します。
私たちが貧しいときや病気のとき、そのようなときでも、どのようにしたら神聖な方法で対応できるか考えます。
私たちは、その日が来るのを待ち望み、備えをするために生きているからです。

私たちの周りを見渡すと、教会の外の罪、教会の中の罪、そして最悪なことに自分の中の罪に気が付きます。しかし、主の霊が私たちの中で働きを終え、新しい天と地に入るとき、私たちはこのような姿にはならないことを私たちは知っています。

私たちのゴールは、日本に素敵なクリスチャンホームを持ち、TBCで素敵なクリスチャンに出会うことではないことを私たちは知っています。もちろんそれはすべて良いことです。しかし、はるかに優れた、全然比較にならない、全く異なるものがあります。

私はこの国、この街、この教会、そしてここにいる人たちを愛しています。しかし、その日、今現在持っているものについて考え、その時に持つものと比べると恐怖を感じます。

神の絶対的な義を持つ正しい私、神の絶対的な義を持つ正しいあなたがた一人一人を見ることになるのです。神の絶対的な義を持つ、正しいすべての人がいるのです。

そして、それだけでなく、すべての義をもたらすお方、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストを見ることになるのです。それが、私たちが準備している命です。

ペテロはネロによって処刑されようとしていました。彼はこの言葉が自分の最後の言葉になるだろうということを知っていました。彼は「私を訪ねて」「私を救って」「私を忘れないで」とは言いません。 彼の最後の言葉は「最後まで敬虔であれ」でした。

そうすれば、どんな状況であっても、天国の味を味わうことができるからです。 しかし、私たちだけでなく、周りのクリスチャンやノンクリスチャンも、私たちを通して天国の味を共有することになるのです。そして、その日には、御心であれば私たちはみな新しい天と新しい地に行進するのです。

まだ、イエス様を自分の主、救い主として迎えていない人は、今日、迎えてください。

指定のない限り聖書は協会共同訳を使用しています。
聖書 協会共同訳: ©日本聖書協会
Japan Bible Society, Tokyo 2018

キリストのことをもっと知りたい
洗礼を受けたいという方はこちら
メール：cc@tokyobaptist.org
もしくは：https://t-b-c.us/cc

TBC Life 申込み
（毎週届くメールニュース）
http://t-b-c.us/tbclife

SG レッスンの PDF
https:/t-b-c.us/sg1522jp

★クラス 201
（霊的に成長にするには?）
4 月 10 日（日）13:00～17:00

★クラス 301
（あなたの賜物を発見しよう!）
4 月 24 日（日）13:00～17:00

https://t-b-c.us/classes

オンライン献金
http://t-b-c.us/give

スモールグループ申込み
http://t-b-c.us/sgsu



奉仕者募集中！

1．週末礼拝メッセージ翻訳者（数名募集）
1か月半に1度くらいのペース
自宅での作業になります。
英語を日本語へ翻訳します。

2．日本語字幕オペレーター（4 名募集）
月 1 回～各礼拝の時間（特に 3 時、5 時の礼拝募集）の字幕のページをめくる奉仕です。英語を聞いて日本語がどの翻訳部分かわかる程度の英語力が必要です。操作は矢印キーを押すだけの簡単なものです。

連絡先（ひろみ）：
hiromik@tokyobaptist.org